

令和7年度 平野区運営方針

(所属長： 東中 秀成)

「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち『ひらの』をめざす。 ・すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち『ひらの』をめざす。 ・子どもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまち『ひらの』をめざす。
使命	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、防犯などの地域課題の解決に向けて、様々な主体が協働し、積極的に関わることができるよう支援する。 ・互いの人権を尊重し、地域ぐるみで支えあい、健やかにいきいきと、平野に愛着を持って暮らせるまちの実現をめざす取組を進める。
令和7年度所属運営の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自助・共助の大切さを呼びかけながら、近年増加傾向にある大規模災害などに備えた防災力の強化を図る取組を進めていく。 ・すべての人が地域で安心して暮らしていけるよう、「住民同士のつながりづくり」「地域全体での見守りの充実」「たくさんの人や関係団体が連携・協力できる地域活動のネットワークづくり」のための取組を進めていく。 ・子どもたちの健やかな育みを支えるため、子どもたちが「生きる力」を身につけ、自分らしくいきいきと成長していけるよう、切れ目のない施策を進めていく。 ・孤立した家庭環境や保護者が抱える不安の中で、児童虐待が深刻化しており、虐待を未然に防ぎ、深刻化させないための対策をより一層強化していく。

重点的に取り組む経営課題						
経営課題 1 安全・安心のまちづくり						
	5決算額	95百万円	6決算額	103百万円	7予算額	105百万円
課題認識	<p>【地域防災力の向上】 災害発生時に、住民同士の助け合いによって防災活動が行えるよう「自助・共助」を推進していく必要があることから、基盤となる地域でのつながりを深めることが重要であり、多くの地域住民が参加する地域防災活動を地域が主体となって実施できるよう支援を強化していく必要がある。</p> <p>【地域防犯力の向上】 子どもや女性が被害者となる犯罪は後を絶たず、高齢者を狙った特殊詐欺の被害は深刻な情勢が続くなどしており、犯罪に対して不安を抱く人が少なくない状況である。安全で安心して暮らせるまちを実現するため、それぞれの地域において、地域住民が中心となり、自治体、学校、警察、事業者などと連携しながら、地域ぐるみで、犯罪などの防止に取り組む必要がある。</p> <p>【地域活動力の向上】 各地域活動協議会の自律運営を実現するためには、地域の実情に即した効果的な支援を行う必要がある。さらには、地域活動の新たな担い手の発掘、育成の必要がある。</p> <p>【地域魅力の向上】 区内には、市営住宅建替え跡地やもと小学校など40か所、約16ha（令和6年8月1日時点）の未利用地があるため、有効活用を図る必要がある。</p>					
主な戦略 (課題解決の方策)	<ul style="list-style-type: none"> 自助、共助を基本として災害に備える体制を確立させるため、地域住民などで構成される自主防災組織の主体的な防災活動実施の支援 地域全体で犯罪を発生させないような環境づくりの推進 区民ニーズの把握結果をもとに、地域活動協議会がより地域課題に応じた事業に取り組めるよう、まちづくりセンターを活用した支援 地域活動力の向上の一環として、「花づくり広場」において各地域で花苗を育て地域の緑化に取り組み、また、子どもから高齢者までの幅広い年齢層が交流できるよう支援 社会情勢の変化等に注視し、地域課題・区民ニーズなどを踏まえた未利用地の有効活用 					
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた進捗度合を示した指標)	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織主体の地域防災活動（防災訓練・防災イベントなど）の実施地域数（全23地域の内、令和6年度：20地域、令和7年度以降23地域） 地域と関係機関の協働による特殊詐欺被害防止の啓発活動の実施回数（令和7年度末まで毎年度10回以上） 地域活動協議会に対して、まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると思う割合（令和7年度末までに地域活動協議会へのアンケートで90%以上） 地域活動の新たな担い手の発掘、育成につなげるため、「種花事業」で育てた花苗の配布地域数（継続的に区内23地域） 					
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成			前年度実績		
	23地域			A		
	16回			A		
	91.3%			A		
	23地域			A		
22地域			23回			
-			23地域			

経営課題2 みんなで支えあう福祉のまちづくり							
		5決算額	48百万円	6決算額	49百万円	7予算額	51百万円
課題認識	<p>【地域福祉力の向上】</p> <p>平野区ではさまざまな事情で支援を要する方々が暮らし続けられる。多様な生活課題を抱える方々が孤立することなく、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で互いに支えあいながら暮らし続けていけるよう、「住民同士のつながりづくり」「地域全体での見守りの充実」「たくさんの人や関係団体が連携・協力できる地域活動のネットワークづくり」のための地域特性に合った支援体制が必要である。</p> <p>また、将来にわたり高齢化率が高い状態で推移すると予想されることから、健康寿命の延伸を図るための取組を広げる必要がある。</p>						
主な戦略 (課題解決の方策)	<ul style="list-style-type: none"> 平野区を取り巻く様々な福祉課題に対し、「平野区地域保健福祉計画（第3期）」に沿って中長期的視点で安定的かつ継続的に取り組む 地域での福祉活動を中心的に担う「地域福祉活動コーディネーター」が地域の福祉活動の担い手とともに、各地域において、平野区社会福祉協議会をはじめ、専門支援機関などとの連携を図りながら見守りや相談ができる体制を機能させることによる地域福祉力の向上 健康寿命の延伸を図るため、年を重ねてもいきいきと活動するための運動習慣や、認知症の発症予防（遅延）及び認知症を発症しても住み慣れた地域で安心して過ごせる取組の支援 						
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた進捗度を示した指標)	地域福祉活動コーディネーターが関係機関と連絡調整した活動件数（令和5年度以降継続的に1地域あたり月平均25件以上）						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成				前年度実績		
	33.2件			A	31.4件		

経営課題3 子どもが元気で育つまちづくり						
	5決算額	42百万円	6決算額	51百万円	7予算額	71百万円
課題認識	<p>【子育て支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市全体で「重大虐待ゼロ」に向けた取組を進める中、平野区では要保護児童対策地域協議会に非常に多くの要保護児童（虐待リスクのある児童）が登録されており、児童虐待対策を実施するにあたり、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点から体制を充実させる必要がある。 ・生活困窮度の高い子育て世帯においては、複合的な家庭問題を抱えている事例も多いため、学校における教育分野の支援と区役所における保健福祉分野の支援を連携し、総合的な支援を実施する必要がある。また、高校中退の問題についても、区内の府立高校との意見交換会において深刻な状況が報告されているため、高校生活の定着支援に取り組む必要がある。 <p>【こどもの学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが経済的な理由や家庭環境に左右されることなく、魅力や個性を伸ばし、学習習慣の定着を通じて「生きる力」を身につけることができるよう、子どもたちの学びを支援する必要がある。 					
主な戦略 (課題解決の方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援 ・複合的な課題を抱える子育て世帯に対する総合的な支援と高校生活の定着支援 ・子どもが生きる力を身につけることができるよう、読書運動や清掃活動など、様々な活動に対する表彰や学力サポート事業などの実施 					
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた進捗度を示した指標)	<p>子どもサポートネット支援対象者件数：令和5年度以降継続的に300件以上</p> <p>学校に行くのは楽しいと感じる生徒の割合：全国学力・学習状況調査で令和7年度末までに76%以上</p>					
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成			前年度実績		
	368件			A		
	81.4%			A		

自己評価 (運営方針全体の定性評価)	<p>【安全・安心のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助の重要性を理解してもらうため、平野区におけるリスクを踏まえた防災啓発を行った。また、各種防災情報の発信や大和川氾濫時の浸水深表示の取組などの啓発活動を実施した。さらには、地域防災リーダーの連絡会や研修等を開催し、防災知識・技術の向上を図るとともに、消防署と連携して地域防災訓練の実施支援を行った。 ・地域や警察等と連携して防犯パトロールや防犯キャンペーン活動を実施した。とりわけ、近年増加している特殊詐欺被害防止に向けて、様々な機会において積極的に啓発活動を行い、特殊詐欺被害防止機器の無償貸与等に取り組んだ。 ・まちづくりセンターを拠点に、広報活動と会計事務の支援に力を入れてきた。活動を共にする現役世代を増やすため、町会加入を促すチラシを転入バックなどに同封して配布したほか、イベント時の啓発チラシ配布や区内施設への啓発ポスター、商業施設のデジタルサイネージなどの広報を実施した。 会計支援については、まちづくりセンター独自のシステムをすでに構築している。このため、大阪市のシステムへの移行は段階的に進め、モデル地区を選定したうえで検証しながら実施する方針である。 ・長吉地域東部、その他の未利用地について活用を推進した。 					
	<p>【みんなで支えあう福祉のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における多様な生活課題を抱える方々を支援するために、地域福祉活動コーディネーターが地域の中心的な窓口として専門支援機関や関係団体と連携をはかり、地域特性に応じたネットワークの構築と支援体制の強化が推進された。 ・地域と関係機関の連携により、地域生活の中でいきいき百歳体操や認知症予防の取り組みを実践・継続することが出来、健康寿命の延伸に貢献する活動を行った。 					
	<p>【子どもが元気で育つまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待を未然に防止し深刻化させないために要保護児童等のアセスメント（分析・評価）を行い、支援が必要なケースに対し継続的なフォローを実施できた。 ・子育て中の親の孤立化を防ぐための情報発信や、支援者や団体とのつながりを深めつつ、スキルアップも目的とした場づくりに取り組むことができた。 ・複合的な課題を抱える子どもやその世帯について、学校園、地域をはじめ関係機関等と連携しながら適切な支援制度等につなげた。 ・読書ノートの目標到達者率は小学校で25.1%であり、令和2年度以降は約4人に一人が目標に到達し表彰されている。中学生の到達率も今年度は2.9%となり、少しずつ向上し、読書ノートは平野の子ども達に定着しつつあると考えている。 					

今後の方針	<p>【安全・安心のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が「自らの命は自らが守る」との意識を持ち、災害時に適切な避難行動ができるよう情報発信や防災訓練の実施支援などの取組を継続し地域防災力の向上に取り組む。 ・犯罪発生を抑止するために地域や警察と連携した啓発活動や地域の実情に応じた防犯カメラの設置、特殊詐欺被害防止等の取組を継続し地域防犯力の向上に取り組む。 ・まちづくりセンターを活用し、引き続き地域の実情に即した切れ目のない支援を行えるよう、自律的な運営と地域活動の活性化に取り組みます。 <p>また、若い世代やマンション住民が地域活動により多く参加できるように、活動案内を積極的に発信し、町会・自治会への加入促進に取り組みます。これにより、地域全体で助け合える「顔の見える関係づくり」を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き区民ニーズなどを踏まえ、未利用地の有効活用を行い、魅力あるまちづくりを推進していく
	<p>【みんなで支えあう福祉のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動コーディネーターが地域の多様な活動に参画しつつ、新たな担い手の発掘・育成を推進することで、地域の福祉力向上を図る。 ・健康寿命の延伸を目指して、地域や関係団体との更なる連携をはかり、介護予防や認知症予防に係る講座の実施や地域における活動の継続・展開を実施していく。 ・認知症の理解や認知症予防のための健康講座を実施する。
	<p>【こどもが元気で育つまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待を未然に防止するためには、引続き、ハイリスク妊婦や乳幼児健診未受診者の把握をはじめ、要保護児童等とその世帯へのタイムリーな支援を粘り強く継続する必要がある。 ・子育てしやすい環境をめざし、情報発信をはじめ、複合的な課題を抱える児童及びその世帯に寄り添う支援を継続する必要がある。 ・引き続き、支援が必要な高校生に対し、個別支援を通じて、高校生活の継続と高校卒業に向けて取り組む必要がある。 ・引き続き、がんばる小学生・中学生表彰など、こどもたちが様々な活動を通じて、学校生活を楽しいと感じられるよう、学校と連携し取り組みを継続していく。読書ノートについても、引き続き学校や児童・生徒の意見を参考に、取り組み周知の充実を行い、表彰者数・表彰率のより一層の向上を図っていく。